

5. 長寿命商品

本来、Reduce とは、“減らす”という意味です。このため、廃棄物問題の文脈で使用される場合には、“ごみにしない”や“ごみを減らす”など、ごみを排出する段階で「排出を抑制する」という意味で使われます。

さらに、容器包装を軽量化したり“製品を長く使うことで、使用済みとなる製品の発生量を減らす”など、「そもそも廃棄物の発生を回避する」ことにも使われます。

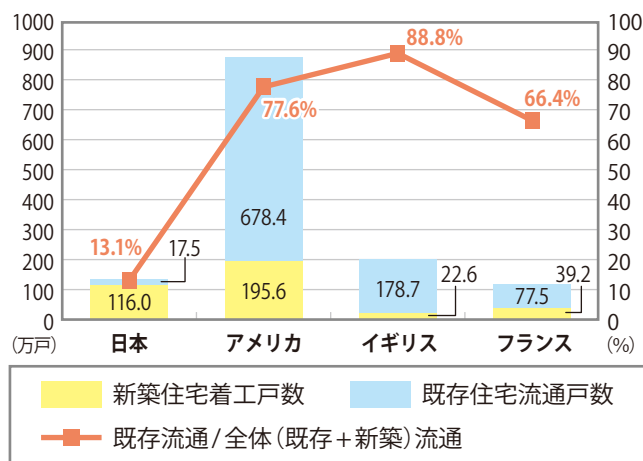
このように、リデュースの概念を膨らませると、たんにごみを減らすことだけに留まらず、「長寿命な製品を作り、それを長期間使用する」ことや「修理可能な製品を作る」、「資源の使用量を節約する」、あるいは「あらかじめ食べられるだけの量を作る」、「作った食べ物は残さない」等々にまで拡大できます。

長寿命な 200 年住宅に住もう！

欧米では半世紀以上も寿命がある一般住宅について（米国 55 年、英国 77 年）、日本ではわずか 30 年程

度で建て替えられています。このような日本の住宅について、その寿命を 200 年まで伸ばすことで住宅の価値を高めるとともに、建設廃棄物（建築ストック）の発生抑制や建材の使用量削減など様々な環境対策に役立てようとする画期的なビジョンが“200 年住宅構想”で、「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」として法制化され、2009 年 6 月から施行されています。

■ 既存住宅流通シェアの国際比較



6. マイボトル・マイカップ&商店街の取り組み

平成22年に環境省は「マイボトル・マイカップキャンペーン」を開始しました。国民の誰もが簡単に実践できるリユースの具体的な取組として、同省が従来から進めてきたマイバッグの利用に加えて新たに展開するものです。

マイボトル・マイカップが利用できるお店の情報提供などを行うほか、エコライフ・フェアでキャンペーンの趣旨等を紹介するブースの出展を行ったりしています。

マイボトル

身近に実践できるリデュース、リユースとしても一つ、大きく広がっているのが、マイボトルとマイカップです。マイボトルに、暑い夏は冷たい飲み物をいれて持ち歩き、こまめに水分補給して熱中症対策。冬は暖かい

飲み物をいれて、ホッと一息。

マイボトルはゴミやCO₂の発生が抑えられるだけでなく、経済的であるという理由から、若い人たちに広がっています。

タンブラーを持参しよう

コーヒー店やファストフード店で提供される飲料は、多くのお店が、使い捨ての紙カップやプラスチックカップで提供していて、毎日たくさんのごみが発生しています。

使い捨てのカップで提供するコーヒー店を多く利用される方は、タンブラーを持参してみましょう。

